

三ノ沢(仮称)

1987年8月15日

9:05遡行開始。出だしは平凡な河原である。10分程歩くと15mの滝。右岸を高捲くが、一の沢(仮称)の時と同様、樹林帯の中でありながら、岩登り同様の登りである。ひと登りして傾斜がややゆるくなったところでルンゼを渡り、滝の上に降り立つ。千歳川流域の沢は、いずれも滝の高捲きが大変のようである。

滝の上はやはりナメ。源頭までずっと続く。まず川原があり、滝が出てきて、そしてその上はナメというのが、ここあたりの沢のパターンのようである。

ナメを20分程登った所で、沢はもう細い凹地にすぎなくなり、水流も消える。遡行終了10:05。(新)

[タイム] 出合(9:05)→遡行終了(10:05)

四ノ沢(仮称)左俣, 右俣

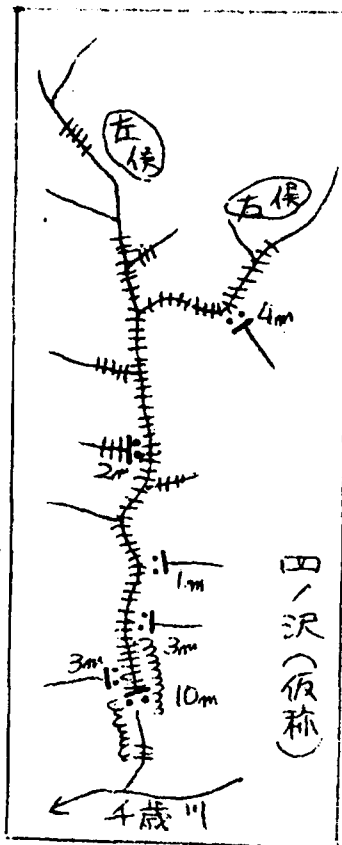
1987年8月15日

10:25下降開始。細い凹地を進むとナメとなる。ここも源流はナメというパターン。特にどうということもないまま25分下ると二俣。ここでちょっと寄り道して右俣をつめてみることにする。

右俣もやはりナメが続く。ナメが終るころには、沢はもう細い筋状の流れにすぎなくなっていた。出合から15分で遡行を打ち切って、二俣まで引き返す。

二俣まで戻って、再び下降を続ける。依然ナメが続く。左右から合流する支沢も全てナメ沢である。いやになるほどのナメ歩きである。

11:30前方がスッパリ切れ落ちて滝。やはりあったという感じである。左岸にすてなわがあって登ってきたパーティが使ったようである。私はザイルを



だして懸垂下降した。

滝の下で軽く昼食をとって、下降を再開。この下は川原となっており、5分程下ったところが本流であった。

【タイム】 下降開始(10:20)→右俣出合(10:45)→右俣終了(11:00)→下降終了(11:55)

八溝山周辺の沢

八溝山塊宮川源流の調査を始めて2年目。この流域は、下部が花崗岩層で上部は第3紀層。滝は花崗岩層の部分に出てくる。南沢に何回か通ううちに、支沢のいくつかに興味を覚えるようになり、より詳しい調査を実施しようという気になり、集中的に遊歩調査をすることとした。

南沢支流ナノ沢(仮称)と その支流一ノ沢、二ノ沢、 三ノ沢右俣、左俣、四ノ沢

1987年9月15日

11:05下降開始。雪面を下る要領でウェディングシューズのかかとを土にくいこませるようにして、ものすごく急な斜面を下る。下りきった所で細い流れが出てきた。第3紀層の崩れた岩屑が一杯詰まった沢である。20分程下ったところで四ノ沢(仮称)出合。この沢もできるだけ多くの支沢の偵察をしながら下降することになっている。

四ノ沢は5分程遡ったところに5mの滝があり、シャワーで直登する。第3紀層の地域であるから、滝など期待していなかったのに。でもそれだけ。あとは岩屑だらけのおきまりの状態であった。